

令和2年度

新潟市立幼稚園・小・中学校授業改革パイロット校園事業 実践事例

目指す資質・能力を育成する保育の質的な向上

研究テーマ

見える・使える「開かれた教育課程」の編成(二年次)
～自ら挑戦し乗り越えようとする「たくましさ」を育む視点から～

新潟市立沼垂幼稚園
園長 白澤 陽子

1 テーマ設定の理由

年々子どもの数が減少し、子どもの遊び場や遊ぶ機会も減少している。そのため、幼稚園においては、生活の中に子どもたちが日頃家庭では経験できない遊びやかかわりが生まれるよう工夫する必要がある。当園では、「人と豊かにかかわる子どもの育成」を目指し、保育実践を中心とした研究に3年間取り組んできた。その中で、子どもたちが主体的に遊びに向かい夢中になって遊びに取り組むこと、また、思い通りにいかないことで困ったり悩んだりする経験をしながら、自分で物事を乗り越えていこうとする過程の大切さを再認識することができた。3年次には、そうした姿を「たくましさ」として捉え、「たくましさ」を育むための教師の言葉掛け、素材や道具など環境のあり方について研究保育や研究協議を通して研修を深めることができた。そのことにより、子ども一人一人が自分なりのペースや道筋で主体的に遊びに向かい、時には困難を経験し、乗り越えようとする姿が少しずつ育ってきている。3年間の成果を生かし、子どもの「たくましさ」を育むためのさらなる保育の充実と質の向上を目指したい。

また、研究保育の他機関への公開及び公開保育後の自由に感想を述べ合うテーブルトークでは、毎年市内各地の市立幼稚園・保育園、私立幼稚園・こども園及び大学関係者等、非常に多くの方の参加を得ている。当園における保育のあり方が、新潟市の多くの園や関係機関に参考にされ、モデルとして期待されていることがうかがえる。その期待に応えるためにも、一層保育力を向上させ、質の高い保育を展開しなければならない。そして、当園の「たくましさ」を育む保育が多くの幼児教育機関の参考となるよう、広く分かりやすく発信していく必要がある。

よって、保育実践を通し、環境構成や援助が子どもの育ちにとって適切であるかどうかを振り返りながら、教育課程を誰にとっても分かりやすいものに見直し、整理していくことで、新潟市が示した研究推進園（先進的幼児教育成果の発信・共有と人材の育成の拠点園）としての当園の責務を果たすべく、この研究テーマを設定した。

2 今年度の重点

昨年度は、本研究の一年次として、主に①「主任会」「振り返りタイム」の実施、②「振り返り」及び「次期の計画」の様式の改善、③「研究保育」の実施、④「教育課程」の見直しを行った。視点を明確にし、教育課程や指導案などの表記は、新しい職員や外部の方でも見やすく分かりやすいものになるように、主任会や学年会で検討し、整理した。振り返りタイムなどにおける話し合いでは、全職員で、「たくましさを育む」という視点に基づき、子どもの育ちと保育のあり方について協議した。明確な視点と全職員での協議は、幼児の確かで大きな育ちにつながった。

新たな取組の中で大きな成果が得られた一方で、今後継続しながら改善を図り、更新すべき点がいくつか挙げられる。また、昨年度は「新潟市共通幼小接続期カリキュラム」が作成された。それに伴い、当園でも、市の研究推進園として、新たな教育課程の中に幼小接続期カリキュラムを位置付け、自園のアプローチカリキュラムとの整合性を図り、更新する必要がある。

そこで今年度は、同研究の二年次として、「幼小接続」に重点を置き、研究に取り組むこととする。

3 今年度の研究の計画と内容 (★:「保育・授業改革パイロット校園事業」と連動した取組)

(1) 「たくましさ」を育むための見える・使える「開かれた教育課程」の編成

① 「主任会」と「振り返りタイム」の実施(継続)

- ・ 2週間毎に「主任会」を設け、教育課程と保育実践を基に短期指導計画を作成する。また、主任会で「期の視点」を話し合い、日々の保育を振り返る視点を確認する。
 - ・ 「振り返りタイム」を設け、期の視点から各学級の保育を振り返り、次期の計画について情報共有及び意見交換をする。
- ★ 「主任会」及び「振り返りタイム」について、指導主事より指導・助言をいただく。

② 「振り返り」及び「次期の計画」の様式の改善(更新)

- ・ 子どもの育ちを捉えるために、環境と援助を考える「柱」(場・物・人・時)を設定し、年間を通じて「たくましさ」を育むための視点を明確化する。

③ 研究保育(継続)

- ・ 実際の保育から、幼児の育ちや課題、環境構成や教師の援助のあり方について検討する。

実践事例紹介

月日	学年	組	保育者	指導者
㊦ 11月13日(金)	年中4歳児	さくら組	木村 佳子	梅田優子先生(県立大)★
㊧ 12月16日(水)	年少3歳児	うさぎ組	中村 真紀	仲真人先生(龍崎大)★
㊨ 1月19日(火)	年長5歳児	ほし組	岡田 みさ子	学校支援課指導主事★

※幼小接続公開保育を兼ねる

- * 2学期以降の実施とする。 * 今年度は学年で1回研究保育を行う。
- * 夏休み頃の感染症状況を見て参観形態を判断する。

④ 教育課程の見直し(更新)

- ・ 「教育課程」と「アプローチカリキュラム」の整合性を図る。
- ★ 「教育課程」「アプローチカリキュラム」について、指導主事より指導・助言いただく。

⑤ 「教材」「活動」資料集の見直し(継続)

- ・ 「主任会」「振り返りタイム」「研究保育」を通して、資料集を加筆修正する。
- ・ 資料集を基に、保育に使った楽譜や音源、製作物の写真等を学年毎に蓄積する。絵本に関しては、不足があれば追加購入できるように記録していく。

(2) 教員の指導力向上 *感染症状況を見て判断する。

① テーブルトーク(公開保育)

- ・ 保育を保育園や小学校等、他機関の職員に公開し、連携推進を図る。(継続)
- ・ テーブルトークで、子どもの姿を語る力を付けるとともに、他校園の方々の保育の見方や考え方を学ぶ。(継続)
- ・ 小学校からの参加が得られるよう、案内の出し方、日時の設定など工夫する。(改善)

② 実技研修

- ・ 学年間で教材研究を深める。(継続)
- ・ 担当が得意分野で講師を務める実技研修会を実施する。(新規)

8月5日(水)	木村	8月24日(月)	岡田	10月30日(水)	小澤
---------	----	----------	----	-----------	----

- ★ 外部講師を依頼する。(新規)

7月29日(水)	発達障害のある子の言葉を育てる	原哲也先生(言語聴覚士)
----------	-----------------	--------------

③ 外部研究会・研修会への参加

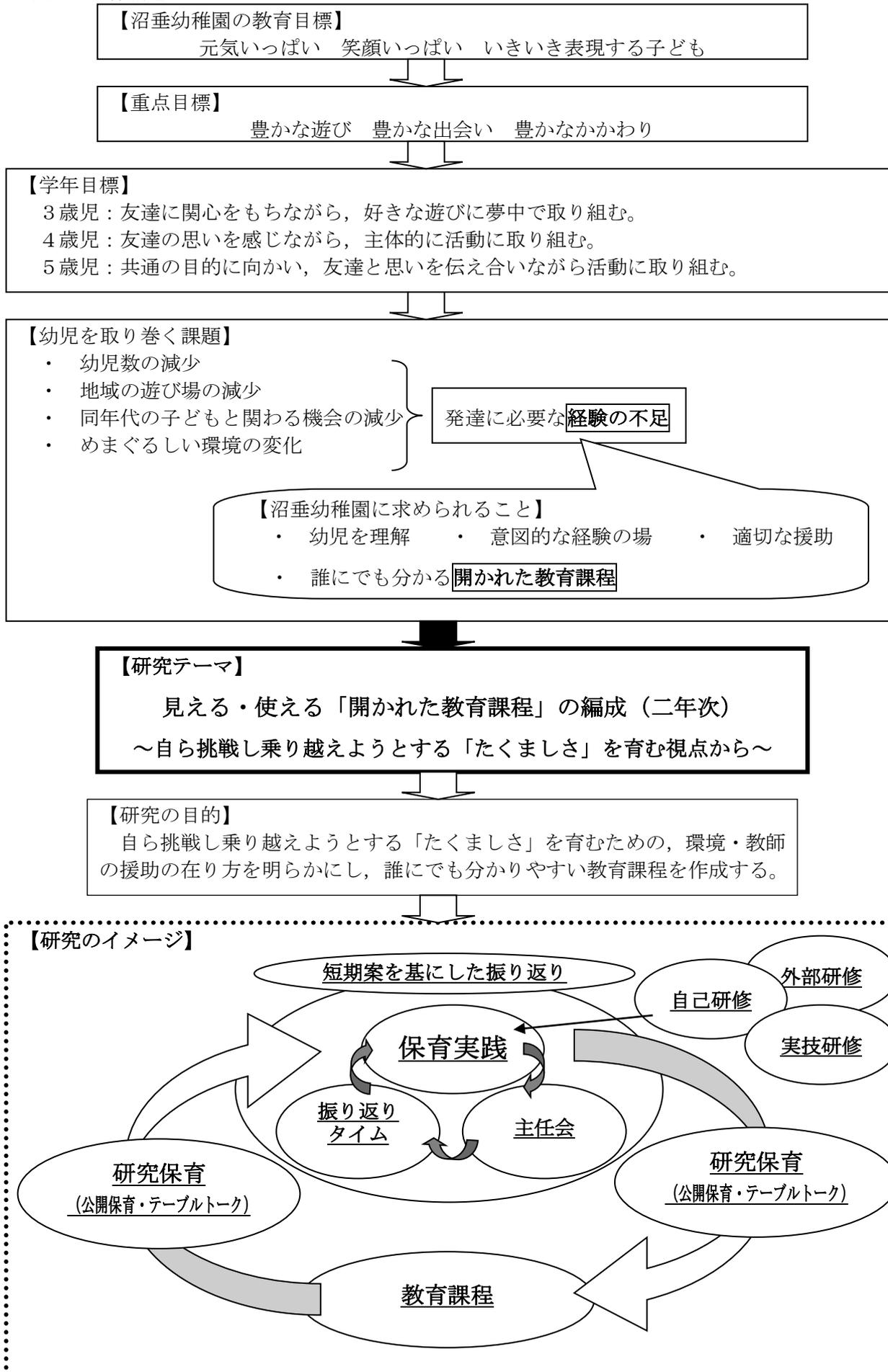
- ★ 他園の研究保育や外部研修会に参加し学びを深める。(継続)

6月千葉大学附属幼稚園	9月新潟大学附属幼稚園	10月上越教育大学附属幼稚園	2月お茶の水女子大学附属幼稚園
-------------	-------------	----------------	-----------------

- ・ 学んだ情報を職員間で共有する。教務と連携を図り、研修後伝達場を設ける。(改善)

☆ 中止

4 研究の全体構想



5 実践事例 (★令和2年11月13日 年中4歳児さくら組研究保育について)

年中4歳児さくら組 研究保育

担任 木村 佳子

○ 4月～10月までの子どもの姿と教師の援助・環境構成 (※ 男児9名, 女児5名, 計14名)

<子どもの姿と教師の願い>

<環境構成□と教師の援助◆>

4
・
5
月

- ・ 進級, 休園, 短縮登園等による環境の変化に不安を感じて登園を渋ったり, 遊びだせずいたりする子どもがいる。
- ・ 遊び慣れた道具や素材を基に遊び始めるが, 長続きせず場を転々とし, 遊びを模索している。
- ・ 年少時から担任が変わった子どもの中には, 教師の呼び掛けに気付かなかったり, 恥ずかしがって口を閉ざしたりする子がいる。

- 年少時に親しんだ遊びのコーナーを設け, 子どもが自分で扱うことができる道具や素材を用意する。(㊦・㊧)
- ザリガニやカメなど, 生き物を環境に置いたり, 触れる機会を設けたりする。(㊧・㊨)
- 園庭や遊戯室など, 広い場で伸び伸びと遊ぶことができる機会を設ける。(㊦・㊨)
- 板状の段ボールや連結した牛乳パック等, 組み合わせて場を構成できる道具を用意する。(㊧・㊦)
- ◆ 一人一人と会話を楽しんだり, スキンシップを図ったりしながらかかわりをもつ。(㊩)
- ◆ 集まったときに楽しいことをして見せる。(㊨)

教師との信頼関係を築き, 安心してやりたいことに取り組んでほしい。



6
月

- ・ 教師の近くにいたり触れ合いを喜んだりするなど, 一人一人が教師とのかかわりを強く求め, 教師を相手に個々に遊ぶ姿が多い。
- ・ 自分なりに場や道具を探して遊ぶようになるが発展が少ない。教師からの働き掛けがないと遊ぶことができない子もいる。
- ・ 子ども同士のかかわりが少なく, 互いに反応が薄い。
- ・ 飼っているカメやザリガニ, 園庭で見つけたダンゴムシ等, 連日見たり触れたりしながら子ども同士が同じ場に集う。互いの姿や言葉に関心を向けている。

- 遊びのイメージが広がるように, 生活に身近な登場人物やストーリーの展開が分かりやすい絵本の読み聞かせをする。(㊦・㊧)
- 自分で遊ぶ力が付くように, 興味関心を捉えて切る, 貼る, 描く等の活動を取り入れる。(㊧・㊨)
- 戸外に出掛けたり, 変化の著しい動植物を取り入れたりして, 様々な感動体験を子ども同士が共有できるようにする。(㊦・㊧・㊨)
- 子ども同士が名前を呼び合ったり, 触れ合ったりすることができる楽しい遊びを学級活動に取り入れる。(㊦)
- ◆ 自ら遊ぶとする子どもをまねたり, 教師自身が遊んだりして楽しむ姿を示す。(㊩)
- ◆ 教師が間に入りながら, 友達の姿や言葉に意識が向くように働き掛ける。(㊩)
- ◆ 子ども同士がかかわる姿を肯定的に意識付ける声掛けをする。(㊩)

やりたいことを見つけて遊びながら, 友達の姿に関心を向け, 触れ合う楽しさを感じてほしい。



7月

- ・ 自ら飼育物の餌やりや植物の水やりをしようとするようになる。子ども同士やり方を知らせたり、順番に行おうとしたりする姿がある。
- ・ 園庭で見つけた木の実や、育てた朝顔等で色水作りを楽しむようになる。友達がしていることに興味をもち、聞いたり教えたりする姿が見られる。
- ・ ハンバーガー屋やすし屋など、絵本やチラシ等を見ながら生活に身近な店屋のまねごとをして遊ぶ。友達と同じものを身に付けて、そのつもりになって楽しむ姿がある。
- ・ 友達に親しみを感じ、名前を呼び合う姿がある。同じようなことをして遊ぶ中で、思いがすれ違いけんかしたり、思うようにできずに諦めたりする姿も見られる。



自分のやりたいことを楽しみながら、友達への関心を深めてほしい。

- 子ども共通の興味・関心を想起する場や物を用意する。(㊦・㊧)
- 子ども同士がイメージを共有できるよう、身近なものに見立てられる素材を用意する。(㊦)
- 生活に身近な歌、踊り、ゲームなどを取り入れ、学級のみんなで楽しむ時間を設ける。(㊦)
- ◆ 子ども同士が触れ合って遊ぶ場面では、少し距離を置いて見守る。(㊧)
- ◆ 一人で遊ぶことが多い子には、教師も並行して同じように遊び、周りの子どもが関心を向けられるようにする。(㊧)
- ◆ 自分から遊びだせない子どもには、教師が相手になりながら、友達の近くに位置し、接点をもてるようにする。(㊧・㊦)

9月

- ・ 休み明け、遊び慣れたものを自ら探して遊び出す姿が見られる。友達がしていることに興味を示し、同じように遊ぼうとする。
- ・ 休み明けの緊張や不安からなかなか遊び出せずに様子を見ている姿がある。教師や友達に声を掛けられて安心し、少しずつ遊び出そうとする。
- ・ 黙々と興味があることに取り組む姿がある。教師が位置することで、子ども同士で関心を向けてまねようとする姿がある。
- ・ 教師を相手に遊ぶことを喜ぶ。教師とのやり取りを介して友達と一緒に楽しんでいるが、教師が相手にならないと遊びが続かない様子がある。

教師や友達と一緒に遊びながら、友達を身近に感じ、親しみの気持ちを深めてほしい。

- 一学期に楽しんだ遊びの場や使い慣れた道具を残しておく。(㊦・㊧)
- 夏休み中の生活経験を想起するような素材や道具を置く。(㊦・㊧)
- 子どもが自分で取り組むことができる素材や道具を用意する。(㊦)
- ◆ 教師は子どもと同じ立場で遊びながら楽しんでいることや考えたことを受け止めたりまねたりする。(㊧)
- ◆ 不安や緊張感が強い子どもには、教師が遊びながらさり気なく話し掛けて気持ちが和むようにする。(㊧)
- ◆ 製作など、個によって難しさを感じる場面では、得意な子どもの助けやアドバイスを促して子ども同士のかかわりの場を作る。(㊧)
- ◆ 子ども同士共通の経験ができるように、年長組の遊びを見る機会を設ける。(㊦)

10月

- やりたいことを見つけて遊んだり、教師や友達のしていることをまねようとしたりするなど、自分から遊び出す姿が見られる。
- 気の合う友達を誘ったり、自分から仲間に加わって遊ぼうとしたりする。
- 友達がしていることを見て同じことをしようとしたり、同じものを使ったり作ったりしようとする。
- 友達に親しみを感じ、一緒にいることを喜んでいる。

<現時点での課題>

- ▲ 遊びが停滞すると、何となく製作する、戦いごっこなどの発散的な遊びになる等の姿がある。
- ▲ 周りの友達の様子や言葉に関心が向きにくい子どもがいる。
- ▲ 自分から思いを表す姿がまだ少ない子どもがいる。特に友達に対しては、思いを伝えることができなかったり、大声を上げて思いを通そうとしたりすることがある。

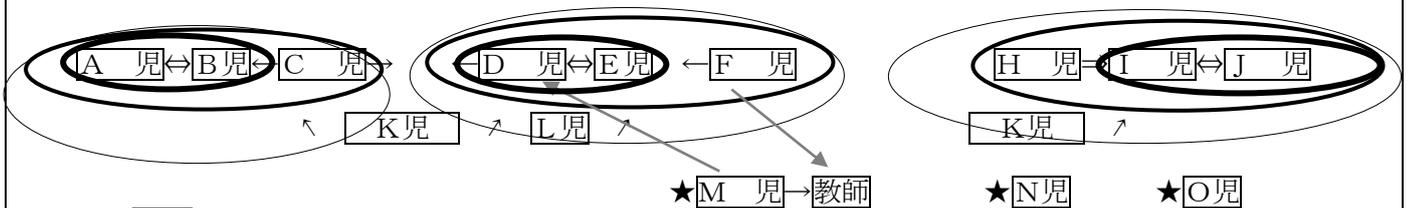
今期の視点：友達に思い付いたことや感じたことを表しているか。

担任 木村 佳子

<今期の振り返り>

* 幼児の姿

① 教師が遊びに加わる場面と、子どもに任せる場面を作る。



・ [C児]が画用紙で紙飛行機を作り、ティッシュの玉に輪ゴムを付け、紙飛行機に引っ掛けて飛ばす遊びを考えた。[A児]・[B児]等が興味を示して同じものを作り、「先生ここに線描いて。」と目標となる場所を決めたり、積み木を組み合わせて様々に発射台を構成したりしながら、数日声を掛け合って遊び出す姿が見られた。数日すると遊びが停滞し、何となく衝立の後ろに入って過ごす等、場を離れていった。



→ 玉を飛ばす仕掛けに面白さを感じている子どもたちである。使った道具が、子ども同士見たり聞いたりしながら自分の力でまねて作ることができるものだったことも、思いを表しながら自分たちで遊びを進める姿につながった。子どもの要求に対し、教師はすぐにビニールテープで四角い線を引いたが、「どうしたいの?」「どうやるの?」と子どもに投げ掛け、子どもが思いを巡らせて表す姿にじっくりと向き合う必要があった。

・ 箱で作った人形や動物をきっかけに、[L児]や[F児]が遊び出す姿がある。教師も加わり、動物や赤ちゃんを世話するつもりになって遊ぶと、やり取りしている言葉に反応して「それ私が作る。」と[D児]や[E児]が遊びに加わった。「ちょっと出掛けてくるね。」と教師が場を離れると、[D児]・[E児]・[F児]の3人でミルクを作ったり散歩をさせたりしながら同じ動きを楽しむ姿が見られた。翌日は自分から遊び出さないことも多い[L児]が遊び出し、[F児]に動きが見られると教師が支えて一緒に遊ぶことから、[D児]や[E児]が少しして遊びに加わる。



→ 箱で作った人形が刺激となり、ままごと遊びに新たな動きが見られた。しかし、子どもたちから、「これをしよう。」「こうしたい。」という思いが生まれにくい。教師や友達の姿や言葉をきっかけに、遊びに加わったり、思い付いたことを表したりして同じように遊び、ひととき楽しさを共有する姿がある。遊びのきっかけを教師が作るばかりではなく、子どもが始めたことに寄り添い、子どもの思いを待つ必要があった。

→ 友達が使っている物に興味を示す[L児]ではあるが、遊びの共有はできにくい。[K児]も同様にあちこちの遊びを見て興味をもった物をまねる姿はあるが、友達と遊びを共有することができにくく、教師に思い付いたことを表したり、助けを求めたりする。子どもに伝わるよう、表したことを整理する必要がある。

・ [I児]・[J児]・[H児]は、同じものを身に付けたり持ったりしながら連れ立って廊下の広い場へ向かう。何となく追い掛けたり隠れたり、同じ言葉を口ずさんで手をつないで回ったりして喜んでいる。教師が遊びに加わり、持っている画用紙玉の意味を訪ねたりすると、「こうやって使うんだよ。先生もやろう。」と、画用紙玉の色に意味付けて、「火・水・蜘蛛の糸」等が出てくるつもりになって動きを楽しむ。自分たちで場を構成できるように、平ゴムを椅子につなげたものを出してみたところ、跳んだりくぐったりすることをひとときしたものの「あれはない方がいい。」と言って再び何もない場へ繰り返し出かけている。

→ 気の合う友達と一緒にいることに楽しさを感じている。しかし、イメージが広がらず遊びが生まれにくい。[I児]と[J児]が[H児]を置いていくような関係性も見られる。教師が遊びに加わったり他の友達と関わる機会を設けたりして、他の遊びに目が向くようにする必要がある。

<次期に向けて>

次期の視点：友達に思い付いたことや感じたことを表しているか。

* 環境構成・教師の援助

※ 場は子どもが構成できるよう空間を確保する。◎は使い慣れた素材を継続し、子どもの姿を捉えて追加・削減する。

- ① 子どもの動きや言葉を待ち、表す姿を受けて一緒に遊ぶ。【「何してるの?」「どうやるの?」「いいね。」等】
- 子どもが遊びながら思い付いたことや感じたことを表すことができるようにする。

年中4歳児 短期指導計画案 (令和2年11月9日～11月20日)

期日	9日(月)	10日(火)	11日(水)	12日(木)	13日(金)
行事		つぼみ フッ素 ばら組絵本貸出	さくら組絵本貸出	研究保育前日準備 13時45分降園	さくら組研究保育 フッ素 13時45分降園
期日	16日(月)	17日(火)	18日(水)	19日(木)	20日(金)
行事	作品鑑賞ウィーク 年長参観・懇談	年長参観・懇談 フッ素	年中参観・懇談	チューリップ植え 年少参観・懇談	フッ素
教育課程の今期のねらい	気の合う友達とのかかわりの中で、自分の思い付いたことや感じたことなどを言葉や動きにして表す。				
ねらい	内容				
◎ 友達に思い付いたことや感じたことを表して遊ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気の合う友達とやりたいことを見付けて遊び出す。 ・ 気の合う友達と場や必要なものを作って遊ぶ。 ・ 遊びの中で、思い付いたことや感じたことを友達に表したり、言葉で伝えようとしたりする。 ・ 身近な自然物を見たり、触れたり、使ったりして遊ぶ。 				
各領域に関して大事にしたいこと					
健康	人間関係	環境	言葉	表現	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 手洗い、うがいなどの大切さを知り、自分からやろうとする。 ○ 防寒着の着脱、ファスナーの開閉を自分でする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達の姿や言葉に、関心をもって一緒に遊ぼうとする。 ○ 自分の思うようにならないことがあっても気持ちを切り替えていこうとする。 ○ 友達とみんなで簡単なルールのある遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 気の合う友達と場や必要なものを作って遊ぶ。 ○ 木々の色付きや落ち葉に関心を持ち、集めたり使ったりして遊ぶ。 ○ 風の強さや冷たさを感じたり葉の落ちる様子を面白がったりする。 ○ チューリップやクロッカスの球根植えをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 遊びの中で、思い付いたことや感じたことを友達に表したり、言葉で伝えようとしたりする。 ○ 一緒に遊ぶ友達の話を聞こうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達となりたいものになって動いたり、そのつもりになって声を出したりして遊ぶ。 	
環境・留意点(学年共通)			教材・活動 など		
◆自らの遊びについて <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもが自分たちで遊びの場を構成できるよう、広い空間を確保する。 ○ 遊びの中で、必要な場やものを子どもが作って友達と遊ぶことができるよう、使い慣れた素材や道具は所定の位置に置くようにする。 ○ 場の構成に使うことができるように、段ボールや衝立、連結した牛乳パック、段ボールの囲いなどを準備する。必要に応じて、ガムテープなどを扱う際は、使い方を知らせたり支えたりする。 ○ 子どもが、自分の思い付いたことや感じたことを一緒に遊ぶ友達に伝えようとする姿を見守る。時には、教師が、言葉を補いながら、相手が理解できるようにする。 ○ 子どもが友達と遊ぶ中で、自分の思いが通らないことがあるということを知り、気持ちを立て直し、またやろうとする気持ちがもてるように支えていく。 			<絵本> <ul style="list-style-type: none"> ○ 園庭の自然や生き物に関心をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ もりのかくれんぼ ・ きのみのかき ・ もりのふゆじたく ・ ヒッコリーのきのみ ・ くんちゃんはおおいそがし ・ ばけはけはば ・ おちばがおどる 	<歌や手遊び> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友達と一緒に歌うことを楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ くものピアノとかげ ・ 秋のこびとオータム ・ 山の音楽家 ・ 葉っぱのダンス ・ ごんべえさんの赤ちゃん 	<踊り> <ul style="list-style-type: none"> ○ リズムに合わせて体を動かしたり声を出したりしてみんなで動く楽しさを味わう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ きのこ
			<描画製作> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自然物を使って描いたり作ったりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 落ち葉や木の実を組み合わせて絵に表す。 ・ 必要に応じてボンドを使う。 	<自然> <ul style="list-style-type: none"> ○ 秋の自然に興味を持ち、遊びに取り入れ、季節の変化を感じる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 葉の色付き、匂い感触など。 ・ 園外散歩(小学校) ・ チューリップやクロッカス・ヒヤシンスの球根植え。 	<運動遊び> <ul style="list-style-type: none"> ○ 先生と一緒に自分たちで遊具を出し入れして遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 巧技台、一本橋、マットなど。
◆遊戯室での遊びについて <ul style="list-style-type: none"> ○ 学級のみならず楽しむことができるように、広い場では簡単なルールのある遊びをする機会を設ける。自分にとって都合よく遊ぼうとする姿が見られる時には、子ども同士で思いを出し合う場を設け、遊び方を確認していく。 ○ 遊具を使って運動遊びをする際は、安全に配慮しながら子どもと一緒に出し入れして場を構成する。 			<触れ合い遊び> <ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな友達と触れ合うことを喜ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ クロススキップ ・ ペアチェンジ ・ おちやのみにきてください 	<集団遊び> <ul style="list-style-type: none"> ○ 簡単なルールのある遊びをクラスの友達と楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 通せんぼ鬼 ・ お引越ゲーム ・ 増え鬼 ・ 氷鬼 等 	<交流> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年長組と焼き芋の様子を見たり、年少組と一緒に食べたりする。

本日の流れ	
8:40 ~	<p>◎ 登園する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教師や友達とあいさつを交わす。 ○ 持ち物を片付ける。 ○ 手洗いうがいをする。 <p>◎ 自分のしたい遊びをする。(本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ㊦ おうちごっこをする。 ㊧ 人形劇ごっこをする。 ㊨ 病院や“マリオ”ごっこをする。
10:00	<p>◎ 遊んだ場所を片付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 使ったものを元に戻す。 ○ 友達や教師と一緒に大きなものを端に寄せる。 ○ ゴミを捨てる。 <p>◎ トイレと水分補給を済ませ、みんなが集まる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 手遊びをする。 ○ みんなで歌を歌う。 ○ 朝の会をする。 ・ あいさつ ・ お休み調べ ・ お話

前日の子どもの姿	
㊦ おうちごっこをする。	D児・E児・F児・L児
㊧ 人形劇ごっこをする。	A児・B児・C児・K児
㊨ 病院や“マリオ”ごっこをする。	H児・I児・J児
★	M児・O児・N児

㊦ D児・E児は“おうち”の場でままごとを始めた。エプロンを身に付け料理や赤ちゃん(人形)の世話をしているつもりで遊んでいる。遅れて登園したF児は、二人の様子に目を向け入りたそうにしながらも一歩踏み出せない様子だった。教師が近付き、「F児ちゃんはお姉ちゃん?お母さん?」と尋ねた。「お姉ちゃんにする。」という応えに対し、「F児お姉ちゃんも帰ってきたよ。」と二人に声を掛けると、「お帰り。」と二人が受け入れ三人同じスカートを履いて遊び始めた。少しして教師は「おばあちゃんからお届け物です。お料理の材料みたいです。」と新しい粘土を手渡した。粘土を三人で分け、団子にしたりケーキを作ったりしながら遊び、時々他の遊びをしている場にできたものを届ける等の姿が見られた。L児も“お母さん”という役で参加しているが、今日は場を離れ、ミニ人形を作っていた。

㊧ K児は、自分で衝立や昨日までに作った“ミニ人形の家”を出してきて場を構成した。これまでは一人で端に場を設定していたが、今日は昨日関わりのあったI児・J児が“病院”を作った場の近くに設定した。A児は、家で銀色の折り紙の家(平面)を作ってきた。友達に見せると、「人形劇に使うの。」と、これまで同様にB児と衝立三枚を並べて人形劇の場を構成した。既成の棒付き人形を出してきて動かしたり、簡単な話を付けたりしながら少し遊んだが、その後は製作の場へ移った。C児は朝から画用紙を刻んだり、貝殻つなぎを作ったりしていた。A児・B児が加わり、貝殻つなぎがたくさんできた。棚にしまおうとしたので教師が「せっかくだから飾らない?」と人形劇の衝立に飾ることにした。「クリスマスみたい。」とC児がつぶやくと、「次のお話クリスマスにしようか。」とA児が発した。教師も加わり、ノートを出して、三人がつぶやくストーリーを簡単に記していった。様子を見ていたK児も加わり、必要なものを探したり作ったりして簡単な人形劇をした。

㊨ J児は、登園すると積み木を出してきて“病院”の準備を始めた。前日I児が身に付けたお面と同じものを作って身に付けた。I児も加わり、教師やK児のミニ人形を相手に病院ごっこをした。遅れてH児が登園し、同じようにしようとしたが、「二人しか入れない。」と言った。「Hくんはお医者さんになれないの?」と教師が聞くと、「だって狭いから。」と言う。「大きくできるんじゃないの?」等教師とやり取りをしながらH児も入ることができた。少しするとお面を“マリオ”に付け替え、「廊下に行きます。」と三人で出掛けた。「仕事ですか?何してるの?」と尋ねると、J児は「ここは砂糖だから転がして砂糖を付けるの。」と答え、病院の“薬”にしていたミニペットボトルを投げたり転がしたりした。少しするとI児・J児がH児から逃げる遊びになっていった。

★ 個別の支援を要する幼児

N児: 前2日欠席。他学級へ行き来したり、廊下で食べ物絵本を見たりする。はさみや描画を自分で始めたり、ままごとコーナーに加わって大型積み木を並べ、場を作ったりままごとをしたりして過ごすこともある。

O児: 廊下を行き来したり、椅子に座ってパズルやドングリの詰め替え、ままごと等をして遊ぶ。

M児: 廊下で音楽を聞いたり、大人を相手に遊び慣れた物を見せたりする。友達の様子を見て喜ぶ。ままごとには参加することもある。

振り返り	
------	--

<p><本時のねらいと内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友達に、思い付いたことや感じたことを表して遊ぶ。 ・ 気の合う友達とやりたいことを見付けて遊び出す。 ・ 気の合う友達と場や必要なものを作って遊ぶ。 	
---	--

10:30	<p>◎ 園庭で遊ぶ(雨天:遊戯室)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 木の葉を集めたり身に付けたりして遊ぶ。 ・ みんなで鬼ごっこをする。
11:30	<p>◎ 給食</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 準備をする。 ・ トイレに行く ・ 手を洗う ・ おしぼりを絞る ・ 給食を取りに来る ○ 食べる ○ 片付ける
12:20	○ お腹を休める
12:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 粘土、自由画、絵本、アイスプラズ ・ 排泄、水分補給
13:00	◎ フッ素

本時の環境構成・教師の援助 (※抽出児: C児・H児)

㊦ “病院”や“マリオ”ごっこをする

- ・ I児・J児・H児の遊び出す様子を見守る。
- ・ 目の届かない場に行く際は必ず教師に声を掛けるよう促し、時々教師も付いていって様子を探る。
- ・ 教師も遊びに加わりながら「それは何に使うの?」等投げ掛け、していることを意味付けたり、イメージが膨らむようにしたりする。
- ・ 三人それぞれが表すことに着目し、「いいこと考えたね。」と受け止めたり、良さが周りに伝わるようにしたりする。友達にされて嫌なことを訴えてくる時には、それぞれの気持ちを聞いたり、どうするか考えるようにしたりする。

㊦ おうちごっこをする

- ・ 遊び出しやすいように、前日までの環境を設定しておき、様子を見守る。(マット・小机・ベビーカー・人形のベッド等)
- ・ 食材や衣類等、家での生活を再現して遊ぶための道具を出し入れしやすい場所に置いておく。
- ・ 子ども自ら〇〇のつもりになって遊ぶ姿を見守り、「素敵なおうちだね。」「今日は〇〇なんだね。」としていることを受け止める言葉を掛ける。
- ・ できるだけ教師の存在を意識させないよう距離をおいて見守る。遊びが停滞している様子が見られた時には、教師も“お客さん”等になって近付き、様子を見守り、必要に応じて手伝ったりする。
- ・ F児が遊び出せない場合には、時間を掛けて自分なりに動き出そうとするタイミングを待ち、しようとしていることに対して「〇〇なのね。」と受け止めたり友達と接点をもてるようにしたりする。一歩踏み出せない場合は、D児・E児等に「Fお姉ちゃん?」と声を掛け、かかわりを促すようにする。

13:15	<p>◎ 帰りの支度をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 排泄を済ませ、身支度、持ち物を準備する。 ○ 絵本を読んでもらう。 ○ 今日の振り返りや明日の話聞く。
13:45	◎ 降園

★ 個別の支援を要する幼児に対して

N児: マット等好きな場を作っておき、安全を確認しながら動きを見守るよう支援員に依頼する。ままごと等他の子の遊びに加わる時は、場やものを整理しながら一緒にいられるようにする。

O児: 廊下側の棚に自分でできる遊び道具を用意しておく。座って作業できる場を作っておき、時々声を掛けてつながりをもつ。

M児: 表しを受け止め必要に応じて手伝いながらやりたいことができるようにする。廊下に出て過ごす時間が多い場合は、時々声を掛けて室内の子どもたちの遊びに参加できるようにする。

㊦ 人形劇ごっこをする

- ・ 前日使ったものを周囲に置いておく。(人形等)
- ・ 前日場を構成していた衝立は所定の位置に置き、必要に応じて出し入れできるようにしておく。
- ・ 教師も「今日のお話はなんだったっけ?」と遊びに参加しながら、子どもが考えたことを聞いたり、必要に応じてノートに記したりしてやろうとしていることが実現できるようにする。
- ・ 友達と関わるのが少ないC児に対し、様子を見ながら声を掛け、教師と一緒に友達と同じような遊びを楽しむことができるようにする。
- ・ K児やL児等、表しが他の子にとって理解できにくいものであれば、介入しすぎないようにしたり、分かりやすい表しとなるよう整理したりする。



【協議の視点】

自ら挑戦し乗り越えようとする「たくましさ」を育むための、環境構成・教師の援助であったか。

⇒有効だった環境や教師の援助は？今後必要な環境や教師の援助は？

※ 「たくましさ」＝「友達に思い付いたことや感じたことを表して遊ぶ」

H児について

<実際の保育>

H児にとって気になる存在であるJ児が欠席した。H児は“マリオ”の遊びに使うため、回転式の道具製作に向かった。菓子箱に穴を空け、紙棒の両端を差し込んで筒状のものを回転させようとしており、教師に「ここに穴を空けたい。」と要求した。教師は、目打ちを出し、H児の示す場所に穴を空けた。

<協議会で話し合われたこと>

H児なりにやりたいこと（製作）に黙々と向かっていて、作ることへの意欲や力が感じられたよ。普段はJ児等の動きが気になりやりたいことに十分向かうことができていないのだね。

今日はK児との僅かなかわりの中に見られたやり取りがとてもよかったよ。H児はやりたいことに向かう中で、必要な場面で助けを求める力ももっているね。

今日はやりたいことに向かうことができる環境が整っていたよね。

「穴を開けたい」という要求に対して教師は目打ちを出したよね。でもK児がはさみで開けてやろうとする姿があって、H児はそれをよく見ていたよ。すぐに目打ちを出すのではなく、少し待つことで仲間とつながることができたのではないかな。育ちに合わせた教材の準備が必要だよ。

H児がしていることを学級の中で常に価値付けていくことが必要ではないかな。一日の中で一瞬でもH児のやりたいこと（製作）ができる時間を作り、認めていく。教師がH児の好きなことに目を向け、寄り添っていくことの積み重ねがH児の自信になって、周りがH児に関心を向けることにつながるよ。

C児について

<実際の保育>

教師は、前日と同様に衝立を置き、人形劇ごっこができるようにしておいた。A児・B児・C児は教師を誘い、前日と同様に思い付いたことを言って“お話作り”を始めた。教師は、子どもが発したことを紙に絵で描いてストーリー仕立てにした。

<協議会で話し合われたこと>

子どもたちが教師を追う姿があったよ。教師が遊びを主導しているから、教師がいないと不安になっていたのだね。

子どもの発信を教師が受け止め、教師のフィルターでまとめようとするように感じられたよ。子ども同士がストーリーを共有するのは難しいのではないかな。

何気ない場面で、C児が作った“矢印”を動かし、それに合わせてD児が動く姿があったよ。二人ともとても楽しそうだったよ。

ストーリーは必要ないのではないかな。自分が作ったものを自分の思いで活用していく楽しさを大切にすることが必要だと思う。子どもが発信し、子どもが楽しんでいることを教師も一緒に楽しむ姿勢が大切だよ。子どもの良さ「○○ちゃんてこんな楽しいことをするんだ」を互いに気付けるようにね。

穴空けたい。

分かったよ。

目打ちで空けてあげよう。

それなら僕にもできそう。

はさみで空けられるよ。



ん～困ったな…

どんなお話にしたいの？

つぶやきを絵に描いて整理したら友達と共有できるかも。

こっちなね。ピョン♪

矢印がこっちを向いたよ♪

Cくんいいこと考えたね♪

Dちゃんが僕の矢印に合わせて動いてくれたよ♪



○ H児について

- ・ やりたいことに向かい試行錯誤している姿が見られた。
⇒ 明日彼が挑戦したくなるような環境とは。
- ・ 彼にとって“マリオ”は安心するものである。一方で他の子どもが共有できるものかどうか。
⇒ 遊びを通して繋がっていくもの、広がっていくものとなるように、作ったものを転換させていくことも必要。“マリオ”の遊びの質を変えていく。「手応え」のある楽しさに。

○ C児について

- ・ 作ったものを思うように活用することが大切である。
- ・ 「動きを伴いながら思いを表す→伝える」自分が表すことが友達に伝わっていく。「友達へ」という明確な方向性があるわけではない。
⇒ 「表し」の意味付けが必要である。

○ 「遊びを通して」ということ

- ・ 遊びの中でどういう経験をさせたいのか。遊びの継続性は。
⇒ 遊びの状況の見取りが大切。

子→好きなこと→どう育てほしいのか
十分できているか

その子なりの遊びの目的—手応え—継続性

○ 遊びが手応えのあるものになるために

- ・ 新しく作り出していくための環境が必要である。
⇒ 自分たちで作り出すことの手応えのある遊びになるために、4歳児にとって、環境として何があるかよいか。
- ・ 今の生活の再現から作り上げ、やり取りが生まれていく。

○ 多くの方に理解してもらうためには

- ・ プロセスから伝えることが大切。ドキュメンテーションなどを活用して。



<協議・指導を得て>

今回の研究保育は、当日のことだけでなく前段階から環境の在り方について考えさせられた。なかなか遊びの充実が感じられない子どもたちに対し、朝の環境に対するちょっとした変化により、遊びへの取り組み方が変わっていくことが感じられた。改めて「環境」の大切さを感じることができた。

当日は、それぞれの子どもたちの姿を通し、教師の援助の在り方について学ぶことができた。「子どもの思いに添って」とは言いつつも、具体的にどうすることが「子どもに添うこと」であるのかが十分に理解できておらず、教師主導になっている部分があった。「子どもが楽しんでいることに添う」という感覚を引き続き保育の中で身に付けていきたい。

ご指導の中では、「遊びを通して」ということの重要性を改めて考えることができた。「遊び」の捉え方により、援助が変わり、子どもたちの姿が変わってくる。今ある遊びの中に見られる子どもの育ちをしっかりと見取り、願う姿に向けてどう転換していくか、そのための環境や援助はどうあるべきかということをも改めて考えていきたい。
(保育者 木村佳子)

6 実践の成果と課題

新型コロナウイルスの影響により、今年度は通常の保育に加えて研究の取組も制限された。当初の計画では、「幼小連携」を強化し、保育を公開することにより理解を深めたいと考えていたが、実現できなかったことが多い。しかし、日々の取組を大切に、園内でできる範囲の研究を進めてきた。

3回実施した研究保育では、11月の実践及び協議を経て、指導案の様式の改善を図った。表記する内容を更に絞り、焦点化することによって、より研究の視点に迫る協議を短時間で行うことができていた。また、外部講師を招き、保育及び支援を要する幼児への対応の仕方について学ぶことができたことは、日々の保育の充実につながっている。

一方で、教師が幼児をより深く理解し、発達につながる有効な援助をしていくためには、実践を基に多くの意見を交わし、見方を広げていくことが必要である。また、更に減少傾向にある幼児数を踏まえ、「たくましさ」を育むために必要な集団経験をどう得ていくかという計画も必要である。

今後は、「幼小連携」「幼児理解」「少人数での集団経験」についてさらに研究を進めていく。